

長畝ふるさと通信



【2022年7月号】

■ 豊作の予感…でも心配



今年には空梅雨で7月前半までほとんど雨は降らず、田んぼはカラカラ、大きなヒビが田面に広がり深刻な水不足かと心配しました。稲は水がないため養分を吸収できず葉色がどんどん薄くなり、このままでは後期栄養不足になってしまうと判断し、全面的に穂肥を追肥することになりました。当初から穂肥を散布する予定だった20haのほかに新たに50haの田んぼに穂肥を散布する為、急遽JAに追加発注し何とか資材を確保しました。連日の酷暑の中、20kgの穂肥を背中に背負って細いあぜ道を歩くのはベリーハードな作業でしたが、組合員のみなさんの協力もあり無事散布することが出来ました。かかった経費は100万円を優に超え、これで今年の米価が上がらなかつたら、これが本当の「骨折り損のくたびれもうけ」となってしまいますが…



■ 松下政経塾 青年塾25期東クラス

松下政経塾の青年組織のみなさんが「志」を学ぶため？佐渡へいらっしやいました。早朝から組合の有機栽培田んぼで生きもの調査や雑草の手取り作業を体験してもらいました。生きもの調査では慣れない田んぼに足を取られながら、童心に帰ってゲンゴロウやカエルの捕獲に夢中になり、雑草取りは「2時間頑張ります！」と張り切ってはみたものの30分でギブアップ。そのあと、ボクの拙い講話(コメ百姓の現状と厳しさばかりのお話)に真剣に耳を傾けてくれました。「大井さんの志をお聞かせください」との要望に「農業を通してふるさとを守ることです」と赤面しながら答えてしまいました(やれやれ・・・)。

昼食には炎天下の中、汗びっしょりになりながら無農薬米をぬか釜で炊飯して、佐渡の郷土



料理とともに美味しく頂きました。午後からは海岸のごみ清掃ボランティアに出かけるという・・・立派な志があつての行動力と感心しきり。後日、参加してくれた塾生のみなさんから「お米の大切さを実感した」「佐渡のために何かできることがあれば応援したい」など熱いお手紙をたくさん頂きました。日本の将来を担う若人たちにエールを送りたいです。

■ WCS収穫

7月下旬、WCS(ホールクroppサイレージ: 稲発酵粗飼料)の刈取が始まりました。コメを作らない代わりに牛の餌(穂が着かないうちに刈り取って乾燥・発酵させる)を作ると、10a当たり8万円が補助金として頂ける国の政策です。この時期に刈り取ってしまうため、秋の収穫作業がなく一見お徳のようですが、コメを作るよりは収入が少ないのです。「人間の食糧を生産したい」という百姓の気持ちは変わりませんが、その人間がコメを食べなくなったのだから仕方がないと無理に納得してしまっています。高く売れるかわからないコメに更に経費をかけ(穂肥散布)、一方で経費はかからないものの収益の低い牛の餌を渋々作る。これがコメ百姓の現実です。令和4年産米の予約注文書を同封いたします。どうか、皆さまのお力添えを。おかわりは自由です。

